

不可能を可能にする 試作精密板金のスペシャリスト



事業内容

板金・金属部品の試作加工メーカー 短納期と低価格の実現

1966年（昭和40年）に白物家電等の部品量産と試作を主事業に創業し、1980年の法人化を機に試作技術を活かして試作板金の専門メーカーとなった。特に絞り加工を含む薄板板金試作を得意としており、鉄、アルミ、ステンレス以外にもチタンや銅など多様な金属を対象とする。

関西圏内の大手家電メーカーをはじめ自動車部品や建築金物メーカーの試作品製作をメインに、板金加工技術を活かして神社神額（鳥居の正面に掲げてある額）の製造まで幅広く手掛ける。“金属製品の試作はどのようなものでも創る”という信念で、他社が断るような依頼でも職人技術と最新技術によって対応するのが基本姿勢である。

同社の強みは短納期と低価格であり、金属製作から絞り加工、溶接加工を社内で一貫加工し、高度な品質管理によって短納期を実現している。また、金型製作は「積層金型」の技術を用いて早くて安い金型作りが可能だ。近年、家電製品のモデルチェンジが早く、製品試作開発の費用が抑制されている。同社ではそんな時代のニーズに合った試作品の提供に秀でている。

補助事業

短納期・低価格のさらなる推進 マシニングセンターを導入

既存の事業運営で短納期と低価格に関して自負する同社だが、同業他社よりさらに“早く”という気運が社内で高まってきた。どうすればさらなる短納期を実現できるか、どうすれば求められる期日内に納品できるのか、を日々思索する同社に新しい設備機器が必要になるのは当然の流れだろう。既存の設備を活用して試作品を生み出していくことは低コストを実現するひとつの方法だが、より一層のスピードアップや精度向上には新たな設備投資が不可欠である。

絞り部を有する板金部品製作において、さらなる短納期・低価格を実現するには、絞り金型を早く安く仕上げるのが一番の課題だった。そこで今回の補助事業では、従来の「積層金型」とマシニングセンターにて作成した「つくり型」を融合させた、独自の「ハイブリッド金型」の製作に最も重要な機械であるマシニングセンターの導入を決めた。

これまで外注しなければならなかった工程を内作化することにより、社内で細かな打ち合わせができ、何よりもワンストップで試作品が提供できるようになるという大きなメリットがある。

成果

受注案件の幅の広がり 次段階として1,000トン油圧プレス機を導入

(ベッドサイズ1,300×1,300)

ハイブリッド金型のシステム構築によって、以前は難しかった絞りを含む製品の製造が可能となり、また、以前よりも低価格で金型製造ができるようになった。

具体的には、曲面が合わない複雑な金型がマシニング導入により社内製作できるようになったほか、硬い材料の絞り込みも可能となった。そのため、受注できる案件の幅が広がったという。

受注面では、大型のテレビのバックパネルなどの依頼が増えつつある状況で、既存得意先を中心に短納期・低価格を訴求ポイントとし、受注量の拡大を目指す。また、耐震用補強金具などを製造する建築金物メーカー向けには、積層による簡易金型では対応できない部分があり、取引金額が頭打ちとなっていたが、対応できる加工の幅が広がったことから取引金額を約2倍に引き上げる予定である。

同社ではマシニングセンターに続き、1,000トンの油圧プレス機を導入しており、製品の競争力を高め、さらなる受注拡大を目指していく。

今後の展開

社内の士気向上 技術力を活かした新たな販路を求めて

補助金を活かした設備機器の導入によって、社内の士気が上がったことも大きな成果だといえる。補助金の申請の段階から社内会議を重ね、社員一人ひとりが“当事者意識”を持って取り組んだことから、ものづくりに対する意識が向上した。新しい設備機器を自分自身の力で使いこなしたいと考える社員が増え、これが品質面の向上にも寄与してくるものと思われる。

営業面に関しては、これまで技術力の向上に心血を注いできたために既存取引先を中心とした営業展開となっており、新規の販路開拓が今後の課題である。業種柄、新規の取引先に入り込むことは難しいが、ここ最近では、同社が新しい設備機器を導入したことを聞いた同業他社からの板金加工を請け負うケースも増えてきている。

「知名度の向上には今しばらくの時間を要すると思いますが、今後もお客様からのニーズに合わせたかたちで短納期・低価格を実践し、顧客の信頼を徐々にではあっても確実に得ていくことが大切だと考えています」と、専務取締役の岩水建二氏は語る。

さらなる製品の高精度、 短納期を追求

専務取締役 岩水 建二
営業 小椋 雄一

弊社では、さまざまな産業分野で得た実績をもとに多様なニーズに対応できるサービスを提供しています。具体的には、メッキ、塗装、コーティング、アルマイト処理、熱処理などで2次処理にも対応可能です。また、板金加工以外にも、ヘラ加工、パイプ加工、バネ類などの加工も承っています。

現在は、今回3度目の補助事業申請中であり、製品のさらなる高精度、短納期化を追求し続けています。



株式会社 豊里金属工業

代表取締役 渡辺 保
大阪市東淀川区豊里4-16-24
TEL：06-6328-9122

〈資本金〉10,000千円

〈従業員〉14人

<http://www.toyosatokinzoku.com/>

e-mail：toyosato@pearl.ocn.ne.jp

